五四三三［四紀］蓋し體なる者は立す、
五四三四　神なる者は運す、
*五四三五　體は乃ち形を外に成す、形を成す者は、能く内なる者を統ぶ、（形の右に外と傍記。）
五四三六　神は乃ち理を内に成す、内を成す者は、能く外なる者を貫く、故に
五四三七　發する者は氣を中に資る、
五四三八　收むる者は體を中に歸す、
五四三九　中外なる者は坱坱の位なり。
五四四〇　時今の古今を行くと偶するなり。故に
五四四一　大小は體を有す、而して
五四四二　中外は體を没す、
五四四三　持際は内を爲す、
五四四四　轉際は外を爲す、故に
五四四五　内は能く輻持す、
五四四六　外は能く輪轉す、
五四四七　中なる者は、無内の一點なり、
五四四八　外なる者は、無垠の坱坱なり、故に
五四四九−五〇　地持なる者は小なり、小なる者は猶お容るるの内有り、
五四五一　容るるの内無き者にして、而して後
五四五二　物として載せざる者莫し、物として載せざる者莫きが故に天地之に乗りて止る、

五四五三ー五四　天轉なる者は大なり、大なる者は猶お容らるるの處有り、
五四五五　容らるるの處無き者にして、而して後
五四五六　物として容れざる者莫し、物として容れざる者莫きが故に天地之に居りて立つ、
五四五七　天地は一圓體なり。
五四五八　氣は見れ體の露するよりして之を分てば。則ち
五四五九　地は中を地心に於て占む、
五四六〇　天は中を轉心に於て占む、
*五四六一ー六二　轉心は中を兩端に貫く、外なる可き者は縫を半の地に合す、
五四六三ー六四　地心は中を無内に占む、外なる者は無垠に位す、故に
五四六五　天地より之を言えば、山壑水燥を載するの地は、中の一點に乘る、
五四六六　日月景影を容るるの天は、外の無垠に居る、
五四六七　覆載より之を言えば、覆おう所の日月景影は外を成す、
五四六八　載する所の山壑水燥は内を成す、
五四六九　轉持は内外を爲す、
*五四七〇　轉守は中端を爲す、是を以て
五四七一　轉内は持を裏む、
五四七二　持外は轉を載す、
*五四七三　斜より之を言えば。規中は能く守る、
五四七四　守外は能く轉ず、

(PB 387)

五四七五　轉じて西を爲す、
五四七六　守って北を爲す、
五四七七　西面は象に逆う、
*五四七八　北外は守を環る、
五四七九　逆を東と爲す、
五四八〇　環を南と爲す、
五四八一　西北は則ち天の定方なり、
五四八二　上下は則ち地の靜位なり、
五四八三　東南は則ち轉の動方なり、
五四八四　内外は則ち持の動位なり、
五四八五−八七　氣は動靜を分ちて、動は轉じ靜は持す、外を轉處と爲す、内を持處と爲す、
五四八八　物は虛實を分ちて、虛天實地は、下を地體と爲す、上を天體と爲す、
五四八九−九〇　内下は則ち本なり、本なれば則ち中に歸して止る、
五四九一　外上は則ち末なり、末なれば則ち坱坱に之きて際涯無し、
五四九二　轉は運を分つ。而して背馳を爲す。是に於てか。
五四九三　氣は東西南北を運す。
五四九四　混焉たる大物は、中を以て其の依と爲す、
五四九五
五四九六

(PB 388)

五四九七　上下内外の位の本づく所は、散結發收の由る所なり、
五四九八　滾焉たる轉氣は、極を以て其の依と爲す、
五四九九　東西南北の方の成る所は、嘭嗡運轉の資る所なり、是に於て
五五〇〇　動は其の形を斜にす、而して以て方を行く、
五五〇一　靜は其の形を正にす、而して以て位に居る、
五五〇二　車は輪を有すると雖も、而も輪は軸に依りて旋らざること能わず、
五五〇三　軸は旋に幹たりと雖も、而も軸は輪を用いて行かざること能わず、是を以て
五五〇四　西に向いて旋る者は、氣なり、
五五〇五　正立して之を西に向わしむる者は、氣の幹なり、故に之を西軸と爲す、
五五〇六　東に向いて旋る者は、運なり、
五五〇七　斜側して之を東に向わしむる者は、氣の幹なり、故に之を東軸と爲す、
五五〇八　西軸は止りて其の位を守る、
五五〇九　東軸は動きて西軸を環る、故に
五五一〇　東西なる者は。各輪旋すれば。則ち
五五一一　東西に指點の地無し。唯だ
五五一二　運輪は其の一規に通じて、東せざる所莫し、
五五一三　轉輪は其の一規に通じて、西せざる所莫し、
五五一四　已に一規に通じて、西せざる所莫ければ、則ち其の軸を爲して守る者は、
五五一五*　兩端に通じて、而して北せざるを得ず、

（其のを欠くか。）

（I 439a）

五五一六　已に一規に通じて、東せざる所莫ければ、則ち其の軸を爲して環る者は、
*五五一七　其の兩端に通じて、而して南せざるを得ず、是の故に
五五一八　西北の方なる者は竪なり、
五五一九　東南の方なる者は横なり、
五五二〇　人は天地の半を以て。己の天地と爲す。
五五二一　其の中央に立ちて。衡從之を望む。是に於て守軸は兩端を爲す。
五五二二　一を北と爲す、
五五二三　一を南と爲す、
五五二四　日去るの方を西行中線の向う所に取りて、以て西と爲す、
五五二五　日來るの方を西行中線の背く所に取りて、以て東と爲す、是を以て
五五二六　靜を言いて動を遺す者は。未だ全を言うに足らず。
五五二七　然りと雖も竪は兩向を爲して。而して人は半體の天地に在り。
五五二八　動なる者は定まらざれば。則ち定まる者に就きて方を取る。
五五二九　定まる者に就きて方を取れば。則ち靜規矩に從う。
五五三〇−三一　東西南北を定めるは。亦た人の以て廢す可からざる者なり。是を以て
五五三二　全方なる者の、動靜の規矩に成るは、天なり、
五五三三　偏方なる者の、十字の衡從に成るは、人なり、
五五三四　是を以て升降は内に輻持、
五五三五−三六　運轉は外に輪轉す、運すれば則ち東す、

(PB 389)

五五三七ー三八　轉ずれば則ち西す、西は則ち北を守る、
五五三九　東は則ち南を守る　故に
五五四〇　上下内外は、圓を以て其の中に成る、之を心と謂う、
五五四一　東西南北は、矩に由て其の中に成る、之を極と謂う、
五五四二ー四三　一は必ず二を具す。是を以て靜圓は中外を得れば、則ち
五五四四　動直も亦た中外を得る、唯だ
五五四五ー四六　靜圓は中を得て以て無内を成す、外を得て以て無外を成す、
五五四七ー四九　動直は中を得て以て至狹を爲す、外を得て以て至廣を爲す、極の成る所なり。
五五五〇　形なる者は圓にして直を成す、故に直圓は正形を爲す、
五五五一　理なる者は直にして圓を成す、故に規矩は斜形を爲す、
五五五二　規矩は理を經緯に分つ、
五五五三　直圓は形を内外に混ず、故に
五五五四ー五五　中外の成る所は。直圓　各　有り。之を平にすれば則ち中邊なり、
五五五六ー五七　之を長くすれば則ち中端なり、剖析の成る所なり。

(I 439b)

(PB 390)